

えどがわABA基礎講座 発達障害の基礎

江戸川区発達相談支援センター長

熊 仁美

発達障害とは（行政的な定義との違い）

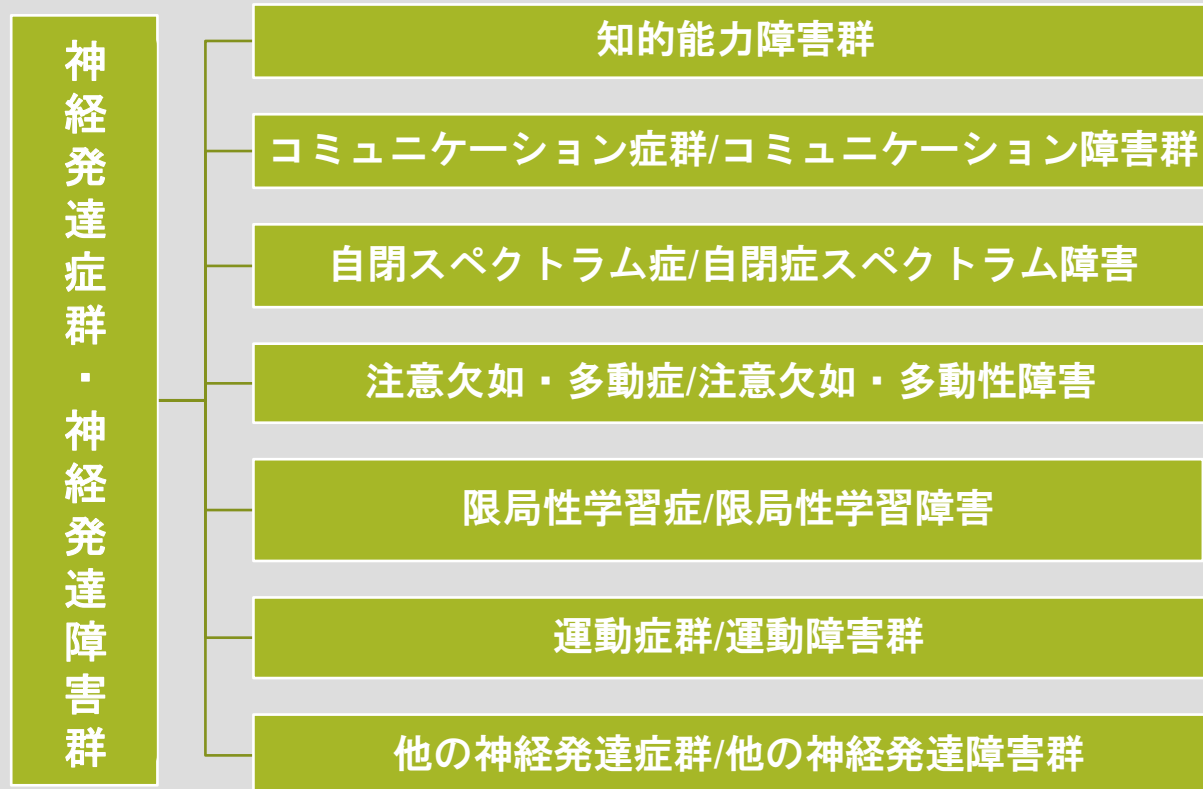
発達障害者支援法 (2005)

- ・ 自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であって、その症状が通常低年齢において発現するもの（第2条より）

DSM-5 精神障害の診断・統計マニュアル第5版 (2013)

- ・ 神経発達症群に分類
- ・ 自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害は、「**自閉スペクトラム症**」に統合
- ・ 神経発達症群は併存疾患たりうる

DSM-5:精神障害の診断・統計マニュアル第5版(2013)



自閉スペクトラム症とは

米精神医学会 「精神疾患の診断と統計のためのマニュアル第5版(2013年)

Diagnostic statistical manual of mental disorders 5th edition : DSM-5 より



社会的コミュニケーションおよび
相互関係の苦手さ



限定された反復する様式の行動、
興味、活動



感覚入力の特異性
(敏感さ/鈍感さ)



早期の段階で出現
後に明らかになる場合もある



社会や職業など重要な領域にお
ける機能に支障をきたしている

スペクトラム
(連続体)

自閉スペクトラム症の発症率

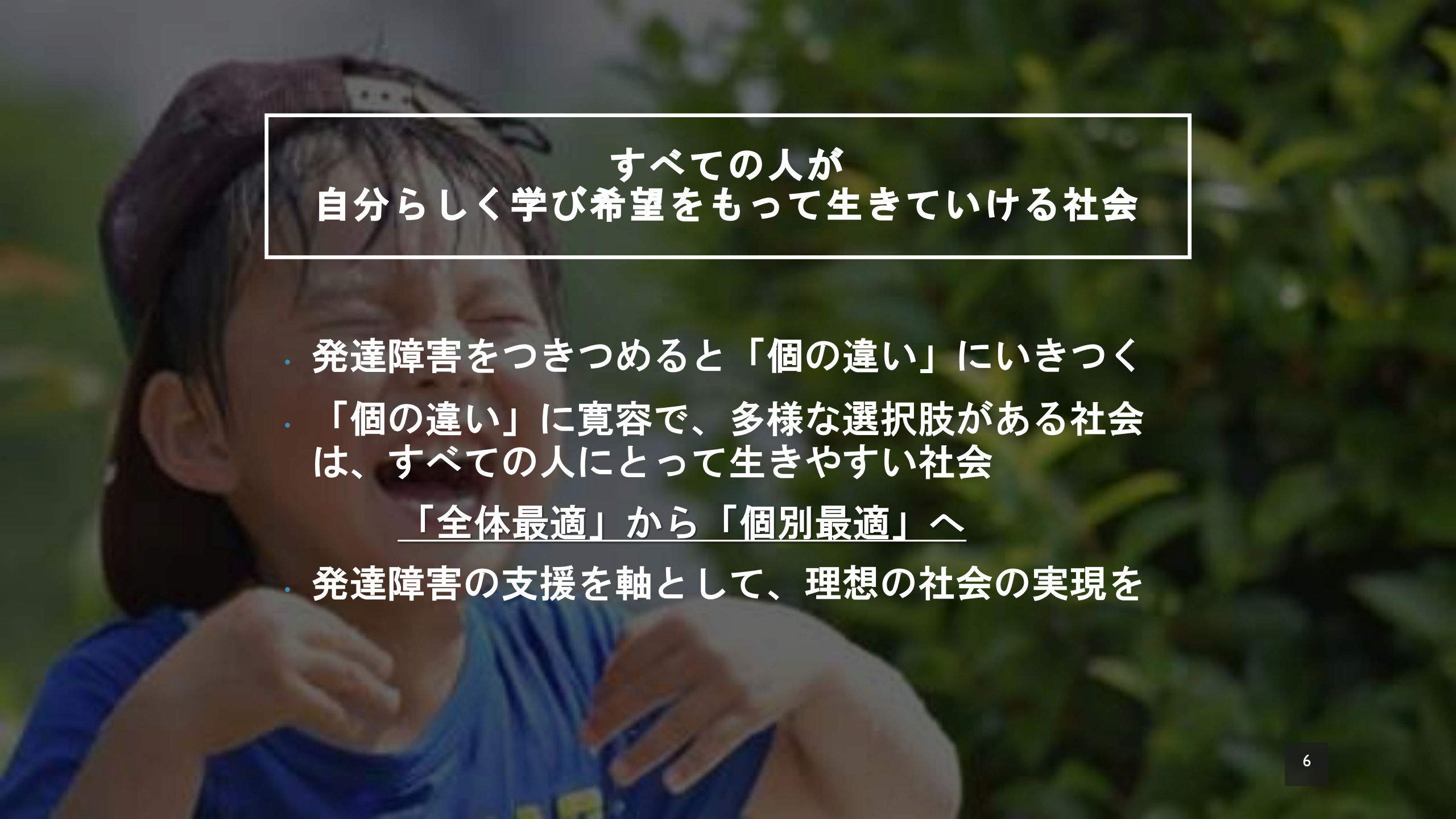
- 米国の疾病対策予防センター（CDC）の調査(2021)では、8歳時点での有病率は44人に1人(2.3%)であった。35.2%に知的障害があった。
- Saito et al(2020)の日本における調査では、5歳時点での有病率は3.22%となった。ASD診断を受けた子どもの88.5%は、他の神経発達症がすくなくとも1つ併存していた。

1 in 44

併存が前提

診断前の早期支援

スペクトラム
(連続体)



すべての人が
自分らしく学び希望をもって生きていける社会

- ・ 発達障害をつきつめると「個の違い」にいきつく
 - ・ 「個の違い」に寛容で、多様な選択肢がある社会は、すべての人にとって生きやすい社会
- 「全体最適」から「個別最適」へ
- ・ 発達障害の支援を軸として、理想の社会の実現を

発達支援の定義

- 内容

-**科学的根拠**に基づき、個々の特性に合わせた支援を行い発達を最大限促進する

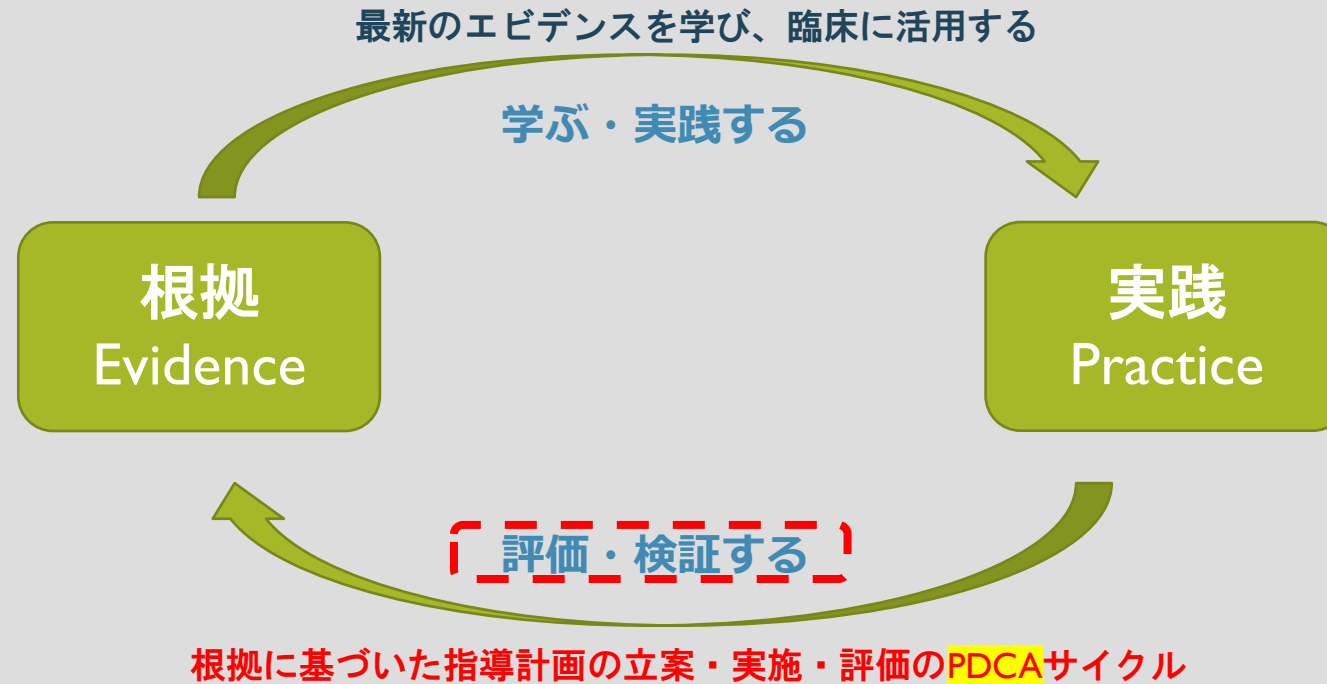
-養育者や支援者を支援し、**家庭や地域における発達や生活**を支える

-多様な連携・発信を通じて、当事者の豊かな生活を支える**地域の支援力を向上**する

-発達支援を通じてすべての人が生きやすい**社会づくり**に貢献する



根拠（エビデンス）に基づいた支援



『日本行動分析学会 倫理綱領』Ⅲ 臨床活動（12）証拠に基づいた治療 参照

* 詳細は、第5章【倫理・人権】にて解説します